

平成〇〇年〇〇月〇〇日

耐震診断等報告書

(宛先) 〇〇〇建築主事 殿

建築主 氏名 〇〇 〇〇 印
報告者 住所 〇〇県〇〇市〇〇町〇-〇
資格 (一級)建築士(大臣)登録第〇〇〇〇号
(設計者) 氏名 (株)〇〇設計 〇〇 〇〇 印
電話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

増築に係る既存不適格部分の建築部分について、新耐震基準の適合性・耐震診断により、地震に対して構造耐力上安全であることを調査・確認しましたので結果を報告します。

1. 対象建築物の概要

Table with 2 columns: 建物名称等, 名称, 所在地. Rows include 構造種別 (鉄筋コンクリート造), 階数 (3階), 延べ面積 (1550 m²), 使用材料 (鉄筋 SD 295A), 基礎形式 (杭基礎).

2. 耐震診断等の方法

Table listing various seismic diagnosis methods such as 日本建築防災協会による, プレハブ建築協会による, and 昭和56年6月1日における建築基準法(新耐震基準)に適合.

耐震診断(改修)の方針
・(財)日本建築防災協会「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・同解説(2001)」の診断法による。
・耐震性能の目標値はIs≧0.60及びCTU・SD値≧0.30とした。
・使用する材料強度は、設計図書(設計図、構造計算書)に示される値を採用した。
・形状指標SD、経年指標Iについては耐震診断基準に基づき算出した。
・土圧のかかる1階Y方向については、鉛直部材耐力から土圧荷重を差し引きIs値、CTU・SD値を補正した。
・Y方向境界梁について梁耐力の検討を行った結果、〇〇部を補強することとした。
・下階壁抜け柱の検討を行った結果、当該柱を補強することとした。
・1階X方向について強度の大きい壁が少なく目標値を下回るため、バランスよく剛性の大きい耐力壁により補強した。
・・・・

※耐震診断(改修)の方針は、概要を箇条書きで記入のこと。

3. 耐震診断の結果（新耐震基準への適合性確認による場合以外）

<input type="checkbox"/> 3-1 「木造住宅の耐震診断と補強方法」（日本建築防災協会）に定める一般診断法								
木造の建築物等（木造の建築物又は木造と鉄骨造その他の構造とを併用する建築物の木造の構造部分）								
方向	階	P (kN)	E	D	Pd=P×E×D	必要耐力 Qr (kN)	耐震指標 I _w = Pd/Qr	
X	2						≥1.0	
	1						≥1.0	
Y	2						≥1.0	
	1						≥1.0	
<input type="checkbox"/> 3-2 日本建築防災協会による既存鉄骨造建築物の耐震診断指針								
方向	階	E0	Fes	Z	Rt	I _s =E0/FesZRt		q値
X	3					≥0.6		≥1.0
	2					≥0.6		≥1.0
	1					≥0.6		≥1.0
Y	3					≥0.6		≥1.0
	2					≥0.6		≥1.0
	1					≥0.6		≥1.0
<input checked="" type="checkbox"/> 3-3 日本建築防災協会による既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準								
<input type="checkbox"/> 第1次診断法								
方向	階	C _w	C _c	C _{sc}	E0	SD	T	I _s I _{so}
X	3							≥0.8
	2							≥0.8
	1							≥0.8
Y	3							≥0.8
	2							≥0.8
	1							≥0.8
<input checked="" type="checkbox"/> 第2次診断法 ※第3次診断まで行う場合は3-4 その他の診断法による								
方向	階	E0	SD	T	C _{tu} ・SD	I _s	I _{so}	
X	3	1.12	0.93	0.99	0.38 ≥0.3	1.03	≥0.6	
	2	1.10	0.93	0.99	0.36 ≥0.3	1.01	≥0.6	
	1	0.84	0.93	0.99	0.34 ≥0.3	0.77	≥0.6	
Y	3	1.14	0.93	0.99	0.39 ≥0.3	1.05	≥0.6	
	2	1.13	0.93	0.99	0.37 ≥0.3	1.04	≥0.6	
	1	0.85	0.93	0.99	0.33 ≥0.3	0.78	≥0.6	
<input type="checkbox"/> 3-4 その他の診断法 別紙による（診断結果を示すもの）								

※劣化状況（劣化度低減係数、経年指標、診断法の劣化に関する適用範囲等）、形状指標については採用値等の根拠となる資料を添付すること

※耐震補強を行う場合は補強後の数値を記入し、補強計画図を添付すること

※診断に用いた図面、その他必要と認め指示したものを添付すること

※本項目の記入例は、新耐震基準への適合性確認による場合の例です。（耐震診断等で経年指標等を考慮している場合は記入不要。）

4. 劣化状況等の現地調査結果（新耐震基準への適合性確認等による場合）

調査位置	調査内容	調査方法	原因、影響、対策についての考察
<input checked="" type="checkbox"/> 床	<input checked="" type="checkbox"/> ひびわれ	目視、実測	構造耐力上有害なひび割れ無し。その他、構造耐力上の有害な変形、腐食等の異常は認められなかった。
<input checked="" type="checkbox"/> 大梁	<input checked="" type="checkbox"/> 腐食状況	目視	
<input checked="" type="checkbox"/> 壁	<input checked="" type="checkbox"/> 傾斜、たわみ、座屈等の変形	実測	
<input checked="" type="checkbox"/> 柱	<input type="checkbox"/> 柱梁接合部・溶接部の確認	—	
<input checked="" type="checkbox"/> 基礎	<input checked="" type="checkbox"/> 亀裂	実測	
<input checked="" type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 不同沈下	目視	
(階段)	<input type="checkbox"/> その他 ()		

※全景(全周)及び劣化状況の写真(部位・状況を記入)を添付すること

5. 報告者(設計者)の所見

別添図面のとおり耐震補強を行うこととして耐震診断を実施した結果により、構造耐震指標I_s値及び強度に係る指標C_{TU}・SD値の目標値を上回り「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準・同解説(2001)」(財団法人 日本建築防災協会)に示されている「構造体の耐震性」は、X方向、Y方向の全階において、「安全(想定する地震動に対して所要の耐震性を確保している)」という判定になることを確認しました。

※耐震改修・補修等も含めて設計者の判断を記入すること。